

論述ブースト No.14

ゲノム医療・遺伝子検査を論じる

—— 可能性・プライバシー・差別リスクを整理

目標：ゲノム医療・遺伝子検査というテーマを「技術的可能性・プライバシー保護・遺伝的差別リスク」の3軸で構造的に論じる力を養う。「ゲノム医療は素晴らしい」という感想から「条件・限界・倫理的枠組み」を論証する答案へ引き上げる。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入：「遺伝子検査で将来の病気リスクが分かるのは良いことですか？」→「知れるほうがいい」と即答する生徒が多い。しかし「知る権利」と同時に「知らない権利」も存在し、第三者（家族）への影響という問題も発生する。

核心：ゲノム医療の3軸：①技術的可能性（個別化医療・発症リスク予測） ②プライバシー保護（第三者への影響・データ管理） ③遺伝的差別リスク（保険・雇用差別）

採点者の視点

採点者はここを見ている —— ゲノム医療・遺伝子検査・プライバシーで合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

ゲノム医療・遺伝子検査・プライバシーでは、可能性・プライバシー・差別リスクの根拠が答案の質を大きく左右します。

② ゲノム医療・遺伝子検査・プライバシーで採点者が見ているポイント

「ゲノム情報の医療的可能性とプライバシー・差別リスクを対置した答案」が採点者に「倫理的に考えている」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所